

治療のできる認知症



山形県立中央病院
 脳神経外科 菅井 務

皆さん、こんにちは。金山診療所で月1回、外来診療させて頂いております山形県立中央病院脳神経外科の菅井と申します。中央病院では脳腫瘍を中心に幅広く診療しています。

今回は高齢化社会になり皆さんが気になっているであろう認知症について簡単にお話します。認知症は長寿に伴い増加傾向で数年後には高齢者の5人に1人が認知症かその

予備軍になると試算されています。現在の多くの認知症はアルツハイマー型といわれるもので脳の神経細胞に特殊なタンパク質などの物質が蓄積し神経細胞がさび付いた状態になり発症するものです。現在色々な治療薬の開発が進行中であり、そう遠くない将来に治すことが可能になるかもしれないですが、まだ治すことは出来ず何とか進行を抑える治療をしているのが現状です。

しかし認知症の中には明らかな原因があり、外科的に治療可能な認知症があります。ひとつは慢性硬膜下血腫という疾患で高齢男性、大量飲酒が危険因子です。比較的軽微な頭部外傷(車の乗り降り時にドアに頭をぶつけた、雪で滑って転倒したなど)の後、2週〜3ヶ月の間に頭蓋骨と脳の間でジワジワと血液がたまってくる病気で、ゆっくりとたまってくるため症状もゆっくり出現し進行します。症状としては認知症様の症状、歩行障害、尿失禁が特徴

です。治療は頭蓋骨に1cmくらいの穴を開け、たまった血液を排出するだけの簡単な治療で劇的に改善します。外傷の既往、症状、頭部CTで比較的簡単に診断でき、簡単な手術でほぼ治る疾患で、約1週間で退院できます。

もうひとつは特発性水頭症という病気で、脳の中を流れている髄液が脳室に貯留し、脳を圧迫、認知症様の症状を呈する疾患です。頭の中で髄液吸収の機能が衰え、少しずつ髄液がたまり症状が出現します。治療は脳室と腹腔内を細い管でつなぎ余分な髄液をお腹の中に排出するシャント術という手術になります。管は体内に埋め込まれますので外からは見え、日常生活の問題となることもありません。どちらの疾患も頭部CTで判断が可能で、比較的簡単な手術で治療ができます。

頭部CTは金山診療所で撮影が可能です。何か困っていること、不安に思うことがありましたら気軽にご相談ください。



Forever in My Town!

いつまでも
 住み慣れた金山で

Part.21

Enjoy My Life!

在宅介護を応援します

12月1日(水)に「在宅介護を応援する会」を開催しました。この会は、介護をしている家族の方の交流や勉強ができる場、認知症サポーターが活動できる場、医療職・介護職等の情報交換の場となることを目指しスタートしました。

1回目のこの日は、自宅で介護を行っている方々や、みずぎ荘・健康福祉課職員など13人が集まり、講話や情報交換が行われました。「寝たきりにならないように、運動や日常生活のリハビリが大事」「在宅サービスを上手く使えば施設でなく自宅で過ごせる」「ヘルパー等介護職の人材不足が深刻」「日



「在宅介護を応援する会」は交流や学習を通してリフレッシュしたりする場です。お気軽にご参加ください。

頃から、かかりつけ医とともに緊急時対応できる医療機関を確認しておくことが大事」などの意見が出され、在宅介護について学ぶ有意義な時間を過ごしました。また、長い介護生活で「在宅介護は疲れた」と本音を話してくださる方もおられ、在宅介護の課題を改めて認識することもできました。

この会を励みに、介護する方もされる方も、元気に地域での生活が続けることができるように、地域包括支援センターと関係機関で連携を図り、在宅介護のお手伝いをしていきます。

今後の予定	日時	内容	場所
第2回	1月26日(水) 9:30~11:30	お話「高齢者虐待について考える」 「認知症の方への介護」	マルコの蔵(2階)
第3回	3月9日(水) 9:30~11:30	お話「家で看取るための医療と介護の連携」 「介護の最新情報、いろいろ」	

講師は、みずぎ荘や健康福祉課の職員です。参加希望の方は、前日まで電話等で申込み可。

申込み 金山町地域包括支援センター ☎52-3035(松田)

ローリングストック法で備蓄しておくの良いもの



缶詰
野菜や果物の缶詰で栄養を。

乾麺
ゆで時間の短いもの。

スープなど
スープ類は食欲がない時に摂取可能。

調理器具の備え

カセットボンベ
1本で約60分使用可能。

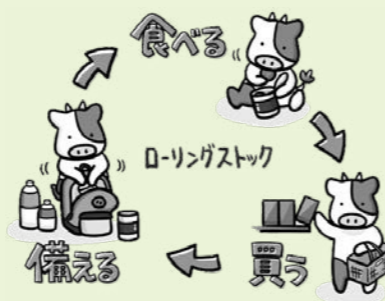


必需品としてセットしておきたい防災グッズが「カセットコンロ」です。被災直後の一時的に電気やガスが止まり、熱源を失ってしまう状況で、カセットコンロはとても重宝します。カセットボンベの買い置きを少し多め(15~20本)にして災害時に備えましょう。

「ローリングストック」とは、従来の「災害用の備蓄は期限の長いものを買って、何かあるまで触らずに置いておく」という備蓄方法ではなく、普段の生活で使う食料や日用品を、もしもの場合に備えて多めに買って置き、ストックされたもののうち古いものから順に日々の生活の中で使い、その使った分を買い足すことで、常に新しいものが保存(備蓄)されていくという災害用備蓄の考え方です。

一言で災害に備えると言っても、するべきことは少なくありません。ですが、全てを一気にこなすのは難しいのも事実です。だからこそ、まずは、自分にできることから始めてみましょう。

備えはいつ始めても、早すぎるということはありません。



防災
 高めよう自助の力



第12回

「ローリングストック」をはじめよう

■もしもの場合に備え、「ローリングストック」で普段の生活に備蓄を取り入れましょう。

大規模な災害が発生すると、電気、水道、ガスなどのライフラインの停止や物流の停止により、生活に必要な食料や日用品が手に入らなくなる可能性があります。

こうした場合、町などによる公的な支援が実施されることとなりますが、すぐに届かない、細かなニーズには応えられない、といった問題が生じる可能性があります。『自分の命は自ら守る』『自分でできることは自らする』取り組みとして、最低3日分、できれば1週間分の食料や飲料水、日用品を「備蓄」し、もしもの場合に備えましょう。